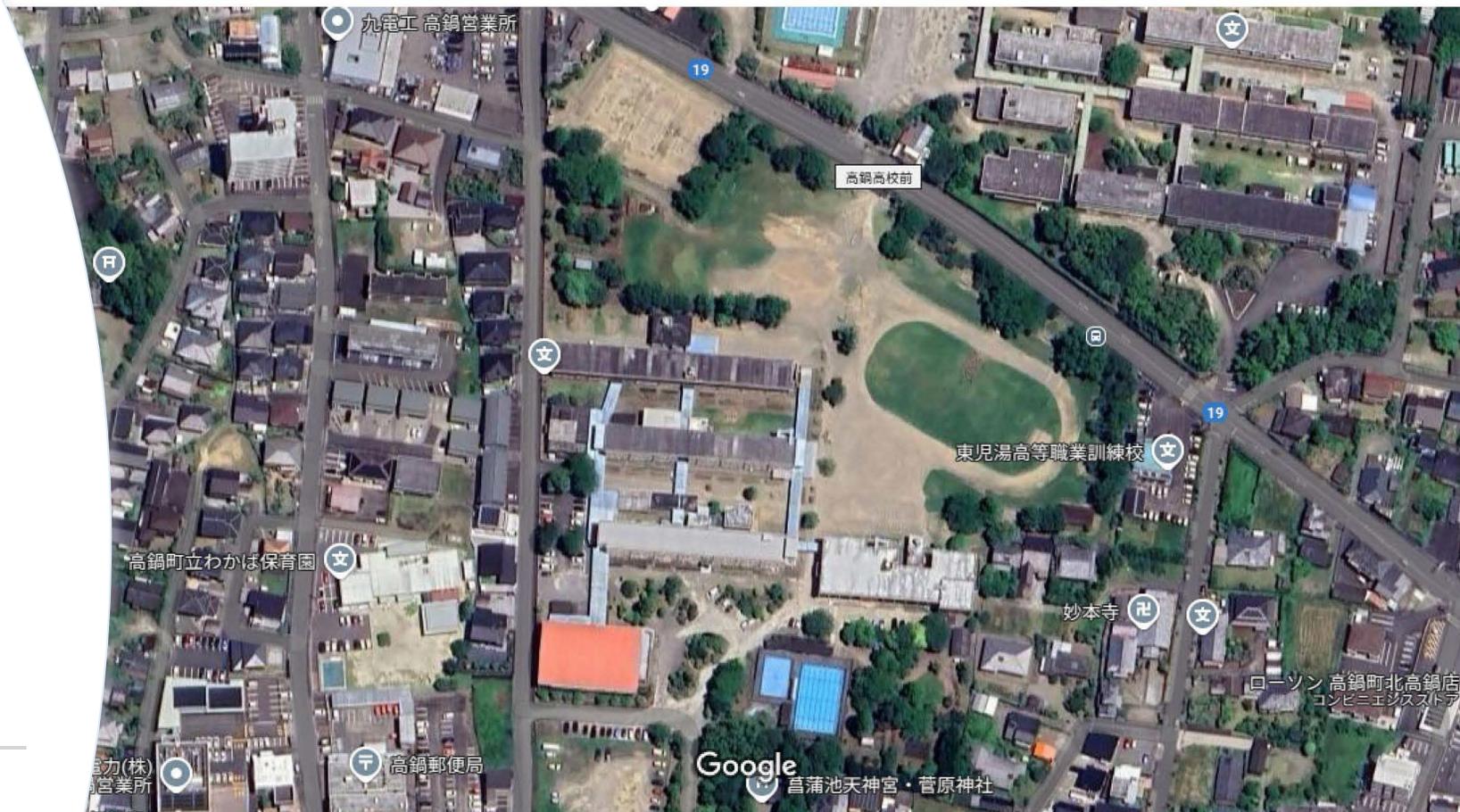


高鍋東小 PTA活動 新体制提案書

令和6年度
高鍋東小PTA執行部



画像 ©2025 Airbus、Maxar Technologies、地図データ ©2025 50 m

提案内容 一覧

提案1 次年度の体制について

提案2 予算内容の見直しについて

提案3 「20歳の自分にはがきを送る」事業の廃止について

提案1 次年度の体制について

令和6年12月に実施したアンケート結果を基に執行部と学校で協議した結果、

活動方法は、今年度と同様の**ボランティア制**、
活動費は、**募金で賄う、トライアル期間を継続する**

ことを提案します。

提案2 予算内容の見直しについて

令和7年度予算では、

- ①慶弔費を無くすこと
- ②将来的に、負担金額の大きい組織への所属を見直すこと

を提案します。

提案2 予算内容の見直しについて

必要経費を募金で賄う方針であるため、**募金で集まった金額以上の支出を行うことは困難**です。実際に、R6年度予算52万円に対し、募金実績は25.3万円で、不足分はR5年度繰越金から補填しています。

ここで重要となるポイントは、「募金額が予算に達しなかったから悪い」というのではなく、「**募金で集まった金額で実施できる活動をすればよい**」という考えを前提とすることです。

そこで、繰越金からの補填が底をつく前に、**活動予算の見直しが必要**となります。

提案2 予算内容の見直しについて

予算の見直しは、次年度から実行できるものと、実行に時間がかかるものがあります。

次年度から実行できるもの:①慶弔費の削減

時間がかかるもの:②負担金額の大きい組織への所属を見直すこと

また、予算を見直す際に重要なことは、**その支出が東小PTAにとって本当に必要な活動かどうか**を考えることになると思います。

提案2 予算内容の見直しについて

①慶弔費の見直しについて(次年度から実行できるもの)

慶弔費の主な内訳は、保護者や教職員への香典・献花代と卒業生への記念品で、令和6年度は8万円を予算として計上しています。

香典・献花はPTA規約に記載がありませんが、昔から慣例的に行われてきたようです。

卒業記念品は卒業生へ蛍光ペン等を贈っています。

どちらも、繰り越せるほどの収入があれば、問題ない支出かと思いますが、必要最低限の活動を行い、活動費用は募金で賄うとなると、**見直しても良い支出項目**になるのではないのでしょうか。

提案2 予算内容の見直しについて

②将来的に、負担金額の大きい組織への所属を見直すことについて (実行に時間がかかるもの)

本提案について、費用面と活動内容の2点から説明します。

1. 費用面について

東小PTAは県・郡・町の各PTA協議会(以下、県P、郡P、町P)に所属し、会員として会費を納入してきました。県Pが約20万円、郡・町Pが合わせて2万円です。

全世帯が1,000円の寄付を行えば、約50万円の収入となり、各協議会への会費も支出可能ですが、今年度同様の募金金額(25.3万円)であれば、その中から、約20万円の金額を支出することは厳しいでしょう。

また、PTAは任意団体ですので、活動に参加するもしないも自由であり、**その活動費用を保護者と教職員の全世帯から強制的に徴収することはできません。**

提案2 予算内容の見直しについて

②将来的に、負担金額の大きい組織への所属を見直すことについて (実行に時間がかかるもの)

2. 活動内容について

各種PTA協議会では、県P町P大会や研修会を開催し、会員同士の交流や知識の向上に貢献しています。

しかしながら、インターネットが発達した現在では、必要な情報は研修会に参加せずとも入手可能であり、また、会議への出席は主に執行部役員が担ってきましたが、共働き世帯の増加で、東小PTA活動以外の活動への参加が負担になっている現状があります。アンケートでも、執行部の負担が大きいのではないかという意見がありましたが、東小PTA以外の会議への出席等が役員の負担を増やしていることは確かです。

提案2 予算内容の見直しについて

②将来的に、負担金額の大きい組織への所属を見直すことについて (実行に時間がかかるもの)

以上のように、費用面や活動内容から、東小PTAの活動として本当に必要なものは何か、また、募金金額内で行える活動は何かを考えた時、負担金額の大きい組織へ所属し続ける事は困難であると言えます。

その為、将来的に、負担金額の大きい上部組織への所属の見直しを提案いたします。

「将来的に」とした理由は、所属の見直しは、関係団体と協議を行い、東小PTAの現状を説明し、理解を得ていく必要があるなど、実行に時間がかかることが予想されるためです。

少し時間がかかるかもしれませんが、「できる人が、できる時に、できる事を」の精神で無理なく、PTA活動を行えるようにするため、見直せる内容は随時、見直していけると、よりよい体制が構築されていくのではないのでしょうか。

提案3 「20歳の自分にはがきを送る」事業の廃止について

本事業は、卒業前の6年生が、20歳の自分に宛ててはがきを書き、8年後の20歳になる年の年末にPTA役員が発送業務を行うという活動です。創立100周年(平成16年度)記念事業の一環として行われ、以後、継続して行われています。

事業自体はとても素敵な内容ですので、廃止するのはとても心苦しいのですが、卒業の8年後にハガキを投函する作業(切手の値上げ時には不足分を買い足し、切手を張る作業もあります。)を、「その時の誰か」に委ねることを継続するのは、難しいのではないのでしょうか。

現在は、執行部が発送作業を担っていますが、8年後の執行部に同様の負担を強いたくありません。

そこで、次年度より、この事業を廃止することを提案いたします。

ただし、この事業の継続を希望する方がいる場合は、その方が責任者となって、有志によるPTA活動として、存続する方法はあると思います。その際には、執行部や学校へお声がけください。

以上の内容を令和7年度東小PTA新体制として提案いたします。

本提案内容を**臨時総会の議案書**にまとめました。
安心安全メールに別添された臨時総会議案書の内容を各自ご確認頂き、質問のある方は、添付のURLにアクセス頂き、ご質問ください。
後日、執行部より安心安全メールを介して全体に向けて回答いたします。
その後、臨時総会議案に対する表決を行います。

皆さんに対応をお願いする今後の流れ

01

各自
臨時総会議案書
の内容確認

02

質問のある方
URLにアクセス
して質問

03

質問内容を
執行部で協議

04

執行部より回答

05

各自
臨時総会議案に
対する表決

おまけ 執行部の意見・感想

今回のアンケートでは、今年度の体制や活動に対して、執行部がどう思っているのか聞きたいというご意見がありました。そこで、執行部11人の意見や感想を集めましたので、報告しますm(_ _)m

長子が6年生の時に執行部に参加してから丸4年が経ちます。それまで、一PTA会員として活動に参加していましたが、当時の執行部の方への感謝と今までお世話になった恩返しの気持ちがあり、参加を決めました。また、現代の保護者や教職員の実情に合わせた活動の形に変えたい、引き継ぐ時には、少しでも負担が減って持続可能なPTAにしたいという気持ちで、活動しています。本年、次年度の改革が進み、可能であれば、規約などの基盤を整備し終わるところまでは、執行部として関わり続けたいと思います。

初のボランティア制で大変だったと思います。個人的には監査役だったので三役の皆さんにお任せしてばかりで申し訳ないと感じたところです。ボランティア制になることで、保護者さんの負担も一気に減ったと思います。ボランティア要請でお手伝いが集まることもできたので今後もボランティア継続で良いと思います。今後、生徒数も減っていくことも踏まえ募金制でどこまで活動費が集まるか心配なところでもあるので...各種協議会負担金は無くせたらor減らせたらと思います。

ボランティア制ではあったけれど、協力してくださる保護者もいたので良かったと思います。私も家や子供の用事、他の役員の仕事もあったりで参加できなかったこともあります。他の役員のみなさんのおかげで救われたことも沢山あります。ありがとうございました。

ボランティアスタッフの招集がイベントによって集まり具合が偏るなぁと感じました。まだ次年度の役員がどれくらい希望が出るかわかりませんが、そこが難航するとなれば、4役（執行部）の役割についても今後検討が必要かなと感じます。その他の意見にもありましたが、この形を続けるにはやはり4役の負担が重要になると思います。

ボランティア制の活動は保護者の方々の協力もあり、問題なく活動できたと思います。活動内容自体が縮小されたこともあり、負担に感じることはありませんでした。子供たちの行事に携わることができて良かったと思っています。私自身の執行部での活動と考えると、本当にお手伝い程度しかできていなかったと反省しています。皆さんでいろいろな活動をやってきましたが、やはり執行部の中でも、一部の方に負担が偏りすぎているのではと感じました。

執行部の活動は多かったかもしれませんが、全く負担になる事はありませんでした。むしろ、子供達のために力になれて嬉しかったです。

無し

子供が学校に所属している年にしかできないとても貴重な経験となった。私の親から当時のPTAの事を聞いたりするが、嫌な事から目を背ける、関わらない保護者が多くなった印象を受ける。両親共働き、仕事内容が多様化など昔とすると変わった部分もあるが、それを盾に協力しない人も多いのではないかと思う。やれる範囲で構わないので、前向きに考える人が多くなる事を願う。また、役員選出において、5年生保護者から任期1年で選出を提案したい。活動においてはボランティア制で問題ないと感じているが、役員選出は強制的に選出しないと継続が難しいと感じる。5年生保護者から役員を選出し、翌年は新役員のフォロー役という流れがベストな気がする。

トライアル期間であったこともあるが、活動はシンプルになったものの、ボランティアで集まらない部分での役員の参加などについては執行部の負担もあったのではないかと思います。この流れが軌道にのれば、全体的な負担も軽減されるのかとは思いますが、その分活動は見えにくくなるのではと心配になります。今年の動きを元に、しっかりとした役割分担は必要になると思います。

1家庭1役を決める時の集まりがなくなることで、夜執行部が集まる回数が減ったので負担が少なくなり良かった。

昨年度は専門委員長として、行事毎に文書作成～印刷～ポスティング～封筒回収～と大変でしたが今まで裏で動いて下さっていた役員の方々に感謝しつつ楽しく活動させて頂いてました。ボランティア制度を試みた今年度は、会長・副会長が大変なのではないかなー？と。私はただ楽しく活動させて頂きました！都合がつかず参加出来なかった保護者の方もいらっしゃると思いますが、参加してくださる保護者の皆様がいてこそ出来たことだと思うので皆様に感謝しています。いつもありがとうございます。